



クイック スタート手順

ここでは、FWSM をルーテッド モードまたはトランスペアレント モードで動作させるために最小限必要な設定について説明します。

- 「ルーテッド ファイアウォールの最小設定手順」 (P.xxxi)
- 「トランスペアレント ファイアウォールの最小限の設定手順」 (P.xxxii)

ルーテッド ファイアウォールの最小設定手順

FWSM をルーテッド モードで設定する手順は、次のとおりです。

	作業	説明
ステップ 1	「ファイアウォール サービス モジュールへの VLAN の割り当て」 (P.2-4)	FWSM がスイッチ上でトラフィックを送受信できるように、スイッチ上で FWSM に VLAN を割り当てる必要があります。
ステップ 2	(場合によって必要) 「MSFC へのスイッチ仮想インターフェイスの追加」 (P.2-6)	MSFC を使用して、FWSM に割り当てられた VLAN 間でルーティングを行う場合は、この作業が必要です。
ステップ 3	「ファイアウォール サービス モジュール への接続」 (P.3-1)	スイッチの CLI から FWSM とのセッションを開始すると、FWSM の CLI にアクセスできます。
ステップ 4	(場合によって必要、マルチコンテキスト モード限定) 「マルチ コンテキスト モードのイネーブル化とディセーブル化」 (P.4-10)	マルチコンテキスト モードを使用するが、FWSM がマルチコンテキスト モード用にまだ設定されていない場合、またはシングル モードに戻す場合、この作業が必要です。
ステップ 5	(マルチコンテキスト モード限定) 「セキュリティ コンテキストの設定」 (P.4-27)	セキュリティ コンテキストを追加します。
ステップ 6	(マルチコンテキスト モード限定) 「コンテキストとシステム実行スペースの切り替え」 (P.4-31)	システム実行スペースで必要な設定およびコンテキスト内で必要な設定があるので、コンテキストとシステム実行スペース間の切り替え方法を理解する必要があります。
ステップ 7	「ルーテッド ファイアウォール モードのインターフェイスの設定」 (P.6-2)	各 VLAN インターフェイスについて、名前 (内部または外部)、セキュリティ レベル、および IP アドレスを設定する必要があります。
ステップ 8	「デフォルト ルートの設定」 (P.8-4)	アップストリーム ルータへのデフォルト ルートを作成します。

	作業	説明
ステップ 9	次のいずれかの方法によるルーティングの設定 <ul style="list-style-type: none"> 「スタティック ルートの設定」(P.8-3) 「BGP スタブ ルーティングの設定」(P.8-10) (シングルコンテキスト モード限定) 「OSPF の設定」(P.8-12) (シングルコンテキスト モード限定) 「EIGRP の設定」(P.8-25) (シングルコンテキスト モード限定) 「RIP の設定」(P.8-24) 	マルチコンテキスト モードで使用できるルーティング方式は、スタティック ルーティングとスタブ BGP だけです。シングル モードでは、スタティック、スタブ BGP、RIP、EIGRP、または OSPF を選択できます。
ステップ 10	(場合によって必要) 次の NAT 方式から 1 つまたは複数を使用 <ul style="list-style-type: none"> 「ダイナミック NAT および PAT の使用方法」(P.16-20) 「スタティック NAT の使用方法」(P.16-30) 「スタティック PAT の使用方法」(P.16-32) 	プライベート アドレスを使用する場合、またはセキュリティを強化する場合は、NAT を設定します。
ステップ 11	「拡張 ACE の追加」(P.13-8)	トラフィックが FWSM を通過するには、トラフィックを許可するアクセス リストを事前に作成しておく必要があります。
ステップ 12	「アクセス リストのインターフェイスへの適用」(P.15-4)	アクセス リストをインターフェイスに適用します。

トランスペアレント ファイアウォールの最小限の設定手順

FWSM をトランスペアレント モードで設定する手順は、次のとおりです。

	作業	説明
ステップ 1	「ファイアウォール サービス モジュールへの VLAN の割り当て」(P.2-4)	FWSM がスイッチ上でトラフィックを送受信できるように、スイッチ上で FWSM に VLAN を割り当てる必要があります。
ステップ 2	(場合によって必要) 「MSFC へのスイッチ仮想インターフェイスの追加」(P.2-6)	MSFC を使用して、FWSM に割り当てられた VLAN 間でルーティングを行う場合は、この作業が必要です。
ステップ 3	「ファイアウォール サービス モジュール への接続」(P.3-1)	スイッチの CLI から FWSM とのセッションを開始すると、FWSM の CLI にアクセスできます。
ステップ 4	(場合によって必要、マルチコンテキスト モード限定) 「マルチ コンテキスト モードのイネーブル化とディセーブル化」(P.4-10)	マルチコンテキスト モードを使用するが、FWSM がマルチコンテキスト モード用にまだ設定されていない場合、またはシングル モードに戻す場合、この作業が必要です。
ステップ 5	(マルチコンテキスト モード限定) 「セキュリティ コンテキストの設定」(P.4-27)	セキュリティ コンテキストを追加します。
ステップ 6	(マルチコンテキスト モード限定) 「コンテキストとシステム実行スペースの切り替え」(P.4-31)	システム実行スペースで必要な設定およびコンテキスト内で必要な設定があるので、コンテキストとシステム実行スペース間の切り替え方法を理解する必要があります。

	作業	説明
ステップ 7	「トランスペアレント ファイアウォール モードまたはルーテッドファイアウォール モードの設定」(P.5-18)	値を設定する前に、ファイアウォールのモードをトランスペアレントモードに設定する必要があります。モードを変更すると、設定が消去されます。マルチコンテキストモードでは、各コンテキストでモードを設定します。
ステップ 8	「通過するトラフィックのトランスペアレントファイアウォール インターフェイスの設定」(P.6-6)	各 VLAN インターフェイスについて、名前（内部または外部）、セキュリティ レベル、およびブリッジグループを設定する必要があります。
ステップ 9	「IP アドレスのブリッジグループへの割り当て」(P.6-7)	各ブリッジグループに IP アドレスを割り当てます。
ステップ 10	「デフォルト ルートの設定」(P.8-4)	管理トラフィックを戻すために、アップストリームルータへのデフォルトルートを作成します。
ステップ 11	「拡張 ACE の追加」(P.13-8)	トラフィックが FWSM を通過するには、トラフィックを許可するアクセス リストを事前に作成しておく必要があります。
ステップ 12	「アクセス リストのインターフェイスへの適用」(P.15-4)	アクセス リストをインターフェイスに適用します。

